

平成30年度 さいたま市立三橋中学校 学校だより



架け橋

第10号

(平成31年1月8日発行)

ホームページ: <http://mihashi-j.saitama-city.ed.jp/>

E-mail: mihashi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 : ゆたかに・かしこく・たくましく

当たり前のこと

校長 永岡 良規

平成最後となる平成31年が幕をあげました。新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

新年の幕開けとともに学校においてはまとめの学期である3学期のスタートです。4月に立てたそれぞれの目標や決意に対しての進捗状況はどうですか。もう達成が無理だからと言ってあきらめたり、投げやりになったりしていませんか。自分の決めた目標にはぜひ最後まで粘り強く取り組んでもらいたいと思います。

新年早々、驚きのニュースが飛び込んできました。囲碁の世界で史上最年少の10歳のプロ棋士の誕生というニュースです。小4の仲邑菫(なかむら・すみれ)(9)さんが、4月1日にプロ棋士になるというニュースです。私は囲碁についてはよくわかりませんが、囲碁は将棋と同じようにものすごく頭を使う、難しいものであると思っています。しかし、そんな難しい囲碁^{なりわい}を生業としている囲碁棋士のある方の話を思い出します。「それが、どのような道であろうと、基本に忠実に従う人は、初心者とプロである。」プロの囲碁棋士も難しい研究ばかりでなく、基本を大切にしているのだと思った印象的な話でした。

ところで、学校生活の基本とは何でしょう。私は、「当たり前」といわれることをしっかり行うことこそ基本ではないかと思います。2学期の終業式では、「あいさつ」とは「心を開いて、相手に迫る」ことであるとし、「はっきりと、気持ちを込めて、自分から」とあいさつの基本について話をしました。また、大人であればあいさつはできて当たり前とも話をしました。

学校生活の中にはこの「当たり前」といわれることがたくさんあります。例えば、清掃(無言清掃)、委員会や係活動、忘れ物、さらには善悪の判断、人への思いやりなどたくさんあります。しかし、私たちはこれらの「当たり前」といわれることを本当にしっかりできているのでしょうか。プロと呼ばれる人が基本を大切にするように、学校生活を充実させたり、人として成長したりするには、日常生活の中の「当たり前」を実践することは大切なことです。この3学期はもう一度「当たり前のことを当たり前にやる」ということを三中生みんな意識し、平成の有終の美を飾りたいと思います。